

「『新成人を祝う会』実行委員会との語る会」

開催日：12月2日（水）

◇台東区の観光業について

質問	回答	対応
<p>昨今の新型コロナウイルスにより、台東区に来て下さる観光客の方の客層がガラッと変わったと感じています。特に若い20才前後のお客様が増えたと感じています。</p> <p>インターネットのサイトなど、SNSも若者向けに作り変えていくのはどうでしょうか。「#たいとう愛」のインスタグラムも拝見しましたが、どのようなコロナ対策を行っているかというよりも、コロナ禍でもどのような魅力があるのかを知りたいですし、発信するべきだと思います。</p> <p>ぜひ、ご検討をお願いいたします。</p>	<p>観光客の中には、感染状況の高止まりを警戒し、東京への来訪を控えている方が多い状況にあると思われます。そのような中、InstagramやTwitterを活用した「#たいとう愛」において、区内観光事業者のコロナへの取り組みや、安全をアピールしつつ、事業者のアカウントの存在を広く伝えています。</p> <p>また、区では新しい日常に取り組んでいることを掲示する「宣言書ステッカー」の配布や、区の産業情報誌「ネットワークたいとう」に店舗情報を掲載するなど、安全・安心に取り組む店であることを紹介しております。</p> <p>ご提案のとおり、魅力発信は重要であり、今後も力を入れていきたいと考えます。これからを担う皆さんにも、その若い感性で、ぜひ台東区の魅力をSNS等で発信していただければと思います。</p>	<p>○</p>

◇台東区内の美術館等への入場料について

質問	回答	対応
<p>台東区在住の大学生も、台東区的美術館や動物園へ安い入場料で入ることができれば良いと思っていますが、一つの提案としていかがでしょうか。</p>	<p>まず区立の文化施設についてですが、下町風俗資料館、一葉記念館、朝倉彫塑館、旧東京音楽学校奏楽堂、書道博物館の5施設については、大学生限定ではありませんが、5館共通入館券を販売しており、通常の入館料よりも割安でご入館いただけます。また、台東区循環バス「めぐりん」や墨田区の循環バス等を自由に乗り降りすることのできる「台東・墨田 東京下町周遊きっぷ」をご提示いただくと、割引を受けることもできます。区立の文化施設が若い世代の方々にさらに足を運んでいただける施設となるよう、今後も努めてまいります。</p> <p>次に区立以外の施設については、東京国立博物館と現在休館中の国立西洋美術館において、大学生であることを証明できるものをご提示いただくと、常設展は一般料金の半額で入場できます。また、特別展、企画展で大学生料金が設定されている場合もあります。その他の美術館、博物館でも、特別展、企画展等、各展覧会で大学生料金が設定されている場合がありますので、ご入場の際にお問い合わせいただければと思います。</p> <p>台東区には、区立や都立、国立等、多くの文化施設があり、素晴らしい文化や芸術に身近に触れることのできる恵まれた環境にあります。区では、この文化や芸術に気軽に親しんでいただけるよう「たいとう文化マルシェ」という文化芸術総合サイトを設けておりますので、こちらもぜひご覧ください。</p>	<p>—</p>

◇地域活性化について

質問	回答	対応
<p>台東区には大学が少ないこともあり、学生が主体の地域活性化のプロジェクトが少ないように感じます。</p> <p>私は、福祉について大学で学んでいるため、台東区の高齢者や子どもたちを巻き込んだイベントなどを企画してみたいと思っています。何かアドバイスや「このようなイベントがあると良い」というものがあれば、教えていただきたいです。</p>	<p>区では、行政や多くの地域団体等が様々なイベントや事業を行っております。例えば、中高生が地域の方と協力し、イベントを運営・開催する青少年フェスティバルや、子育て世代向けの自然教室イベント等を行っております。</p> <p>また、台東区社会福祉協議会では、地域住民や区内ボランティア団体等と協働し、地域の絆を深め、共に支え合う地域福祉社会の実現を目指したボランティアフェスティバルの開催もしております。</p> <p>地域包括支援センターと医療機関が連携して実施している「認知症カフェ」という事業もあります。参加者の多くが高齢者ではありますが、認知症の方やその家族、認知症に関心のある方など誰でも参加でき、医療や介護の専門職、同じ立場の方々とお茶を飲みながら話し合うことができます。</p> <p>その他にも、町会や地域団体、NPO法人等の各種団体と連携した事業を行っております。</p> <p>今後、ご自身でイベントを企画するにあたっては、まずは町会や区の行事等に参加し、ボランティアなどで運営に関わってみてはいかがでしょうか。そうした活動を通じて、高齢者や子供を巻き込んだイベントの企画のヒントを見つけてもらえると、大変嬉しく思います。</p> <p>各種事業やイベントの詳細、ボランティアへの申し込み方法等については、区公式ホームページでご確認いただけますので、ご覧ください。</p>	<p>—</p>

◇新成人に必要な心がけについて

質問	回答	対応
<p>二十歳を迎えた新成人に必要な心がけは何か、また、台東区長はどのような心がけをお持ちでしょうか。</p>	<p>今まで皆さんは、家族や学校など、多くの方に守られてきました。二十歳を迎えると、一人の「大人」として様々な権利が与えられ、その権利には個人としての責任が伴います。新成人になるうえで、「大人として社会の一員であることを自覚し、責任ある行動をとっていく」、「自ら考え、自主的に行動する」ということを心がけていただければと思います。</p> <p>来年は、待望の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定です。</p> <p>日本が初めてオリンピックに参加したのは、108年前の大正元年、第5回ストックホルム大会でした。大会団長の嘉納治五郎は、講道館柔道の創始者であり、その発祥の地は、台東区の稲荷町にある永昌寺というお寺です。嘉納治五郎は常々、「若い力を、自分のためだけに使うのではなく、社会のために使い、他の人と共に栄える世の中にするために生きていくことが大事なのだ。」という講道館柔道の精神「精力善用」「自他共栄」を説かれていました。</p> <p>今年予定されていたオリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルス感染症のため来年に延期となりました。</p> <p>皆さんも、これからの人生において、様々な困難や予定外の事態が起こることもあると思います。そのような時、「精力善用」「自他共栄」の精神を持ち、「本を忘れず、末を乱さず」前向きに歩んでいただきたいと思います。</p> <p>私も、若い力を存分に発揮できる環境づくりを心がけています。新たな時代を担う皆さんに大いに期待しております。</p>	<p>—</p>

◇待機児童について

質問	回答	対応
<p>私の弟が保育園に入る際、両親が共働きであり、保育園に入ることができずに困っていました。今は改善しているのでしょうか。</p> <p>私たちの子どもが生まれたときに台東区に住むのなら、待機児童数が0であってほしいです。</p>	<p>共働き世帯の増加等により、保育所への入所希望が増えております。区の待機児童数は、平成28年度の240人をピークに年々減少し、令和2年4月1日現在で60人になりましたが、未だ多い数字となっております。</p> <p>区では、増加する保育需要を見据えて、令和2年3月、保育所整備の計画である「子ども・子育て支援事業計画」の見直しを行い、4月に認可保育所を3か所、6月に緊急保育室を1か所開設し、266人の受け入れを行いました。さらに、令和3年4月には3か所の施設を整備し、159人の受け入れを行ってまいります。</p> <p>今後も、待機児童解消に向けて保育所等の整備を進め、子育て世帯が安心して働くことができる台東区を目指してまいります。</p>	○

◇マイナンバーカードについて

質問	回答	対応
<p>マイナンバーカードの手続きを行って2か月程が経過したのですが、発行まで3か月程もかかることを知り、遅すぎるのではないかと感じました。</p> <p>6月15日にも台東区のマイナンバー関連システムに障害が起きているように、区のデジタル化があまり進んでいないと感じています。</p> <p>デジタル庁が新設されたことで、台東区としてどのようにデジタル化を進めていく予定でしょうか。</p>	<p>今年度は、特別定額給付金やマイナポイント等の影響で、マイナンバーカードを申請する方が急増しました。マイナンバーカードは確認事項も多く、申請から交付まで2か月半から3か月程かかる状況が続いております。</p> <p>今後も国や関係機関と連携し、必要な要望を伝え改善に向けて取り組んでまいります。</p> <p>また、行政のデジタル化を推進するため、現在区では、新たな情報化推進計画を策定しております。技術革新の急速な進展や新型コロナウイルス感染症対策等、ICTの動向や社会状況の大きな変化に柔軟かつ適切に対応し、デジタル化を通じて区民の皆さまの利便性向上と行政の効率化を図ってまいります。</p>	○

◇コロナ禍においての三社祭・酉の市の実施について

質問	回答	対応
<p>ほとんどのお祭りが中止になる中で、三社祭・酉の市を延期して行った理由は何かあるのでしょうか。</p> <p>また、神輿を車移動で行っていましたが、他にも対策をしていたことを教えてください。</p>	<p>各神社の祭礼等は、区が直接的に関与しているものではございませんが、三社祭については、1年に1度の「本祭り」として必ず斎行される御祭礼であり、社殿で執り行われる「例大祭式典」と共に、氏神様に氏子の町々の様子をご覧いただき、そのご神徳を授かる事が本義となることから、お神輿の移御を実施したと聞いております。</p> <p>また、酉の市については、様々な行事やイベントが中止となる中、中止にするのではなく出来る事をして、歴史と伝統を守る活動をする事が大切だと考え、当初の日程どおりに実施したと聞いております。</p> <p>どちらのお祭りも出入り口の制限や、検温・手指のアルコール消毒・マスク着用の依頼等を行い、さらに、三社祭では神事斎行時の境内の規制区域の設置、酉の市では手締めのかげ声や祝い酒の振る舞いの中止等、様々な感染予防対策を施したうえで実施したとのことです。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年開催されているお祭りやイベントが、中止や規模縮小等の状況にあります。区といたしましても、区民の皆さまが安全で安心して生活を送ることができるよう、引き続き、感染防止対策に全力で取り組んでまいります。</p>	<p>—</p>

◇台東区の性的マイノリティの方への配慮について

質問	回答	対応
<p>台東区は、歴史と文化に大変恵まれたゆかりを持ち、そうしたゆかりを背景に、国内外から様々な人が集まり、ある種の多様性が色濃く見られる、素敵な街だと住みながら感じます。今後も、様々な人を受け入れてゆくこととなるのだろうと思います。</p> <p>そうした多様性について、時に考えるのは、台東区の性的マイノリティの方々への配慮のあり方は、どのようになっているのか、ということです。例えば、他自治体で導入が進んでいる同姓パートナーシップ制度は、台東区では導入されていません。行政が多様なパートナーのあり方を認めることは、異議深いように思います。性的マイノリティの方への配慮の取り組みのうち、同姓パートナーシップ制度についてはあくまで一例ですが、台東区行政として、現在どの程度検討されているのか、教えていただけないでしょうか。</p>	<p>区では、令和2年度から6年度までを計画期間とする「台東区男女平等推進行動計画」において、取り組みの方向性の一つに「性の多様性に関する理解の促進と相談体制の整備」を新たに位置付けました。</p> <p>こうしたなかで、多様な性の在り方への理解を広めるために、講演会などの機会を通じて啓発活動を行うほか、カウンセラーによる相談業務を実施し、理解の促進や悩みに対する支援に努めております。</p> <p>また、区で使用している申請書や証明書等について、不要な性別欄を設定しない取り組みも行っております。</p> <p>同性パートナーシップ制度の導入については、相談業務の中で蓄積される地域のニーズを勘案し、今後、慎重に検討していきたいと考えております。</p>	<p>☆</p>

◇学生と町の関わりについて

質問	回答	対応
<p>小学校・中学校では、仲見世通りでインタビューや職業体験を行っていたと思いますが、現在はどのように行っているのでしょうか。また、コロナの影響でできない場合、代わりに何か行っているのでしょうか。</p>	<p>仲見世通り商店街におけるインタビュー活動については、国際理解や伝統工芸への理解を目的に実施してまいりました。しかし、観光客数等が増加し、人や車等の往来が激しくなったため、各校の判断により、規模を縮小して実施しております。また、以前から、各校で地域の方をゲストティーチャーとして招き、仕事内容や地域活動等のお話を伺う機会を設け、地域に対する理解を深める学習を進めております。</p> <p>また、職業体験については、今年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。勤労観・職業観を育てるための「キャリア教育」は必要であることから、今年度については、各校で卒業生や地域の伝統工芸職人等をゲストティーチャーとして招き、お話を伺う機会を設けました。</p> <p>今後も、地域の方などに教育活動に参加していただき、生徒が地域に興味や関心を持つような授業を行ってまいります。</p>	<p>—</p>

◇広報紙について

質問	回答	対応
<p>区の広報紙をペーパーレス化する予定はあるのでしょうか。</p> <p>紙で印刷するのであれば、紙面ならではの情報があっても良いのではないかと思います。</p>	<p>区の広報紙「広報たいとう」は、区の施策や事業、行事など区政情報を提供する主要な広報媒体として、月2回発行し、紙媒体で各世帯にお届けしております。紙媒体のほか、区公式ホームページや多言語対応デジタルブック（カタログポケット）等の電子媒体でも閲覧できるようにしておりますが、区政情報を紙媒体で入手している方や、パソコンやスマートフォンなどを所持していない方もいらっしゃるため、紙媒体の広報紙は今後も必要であると考えております。今後も、魅力ある紙面づくりに努めてまいります。</p> <p>また、区では、広報紙以外にも、区公式ホームページ、Twitter、LINEなど、様々な媒体を活用し、より効果的に情報発信ができるよう取り組んでおります。災害時に区が発信する最新情報の確認等ができる、防災アプリ「台東防災」等の専用アプリも設けておりますので、ぜひ各種媒体をご覧ください。</p> <p>区からの情報をより多くの方に届けるため、引き続き、紙媒体と電子媒体を効果的に活用し、情報発信に努めてまいります。</p>	<p>—</p>

◇路上生活者の支援について

質問	回答	対応
<p>先日、台風が接近した際には、路上生活者の避難場所を設置することを決定したという新聞記事を拝見しました。</p> <p>様々な方からの意見を取り入れ、新たな体制をつくろうとされる姿勢に区民として、とても安心しました。</p> <p>歴史的にも日雇い労働者などが多く過ごす台東区で、区としての支援や対応など、今後のビジョンを教えてください。</p>	<p>区では、生活保護法やホームレスの自立支援等に関する特別措置法等の各種法令に基づき、日常生活への支援が必要な方や路上生活者への支援を行っております。</p> <p>区独自の支援策として、巡回生活相談を行っております。区職員や地域のNPO法人の医師や看護師が同行し、健康状態や生活状況の聞き取り、区役所へ相談に来てもらう案内等を行っております。このように行政と地域のNPO法人が協力して実施する体制を取っているのは、都内では台東区だけです。</p> <p>丁寧に働きかけを続け、信頼関係を築いていくことが、路上生活から脱却するための第一歩になると考えております。今後も、一人でも多くの方が地域生活に移行し、健康で安定した生活を送ることができるよう、関係機関と共に粘り強く支援を行ってまいります。</p> <p>また、災害時の対応については、今年度、路上生活者を含むすべての方が安全に安心して避難できるよう「台東区風水害対応方針」を策定いたしました。情報が伝わりづらい環境にある路上生活者に対しても、情報を周知し、避難場所の提供を行う支援をしてまいります。併せて、必要とする方には生活相談も行う予定です。</p> <p>今後も安心して避難ができるよう、関係団体との協議を含め、検討してまいります。</p>	<p>—</p>

◇駐輪場の増設について

質問	回答	対応
<p>台東区は駅の周辺になると、指定されていない場所で自転車が置かれています。街づくりの為に、更に自転車の駐輪場を各駅に増やすことは考えているのでしょうか。</p>	<p>区では、駅周辺を中心に自転車駐車を整備している13の地域を「指導整理区域」に指定し、放置自転車指導員による指導や撤去等、放置自転車対策を行っております。</p> <p>放置自転車の台数は、減少傾向にありますが、依然として多い場所も見受けられます。区としても、駐輪場用地を探しておりますが、場所の確保は難しい状況です。</p> <p>今後も、駐輪場用地の確保に努めていくとともに、自転車を共有する「シェアサイクル」や、民地の空きスペースを一時的な駐輪スペースとして活用する「駐輪場シェア」を推進することにより、放置自転車の削減を図ってまいります。</p>	<p>—</p>

◇ゴミ箱の設置について

質問	回答	対応
<p>台東区はゴミ箱を設置しないのですか。</p>	<p>区では以前、道路にごみ箱を設置しておりましたが、まちの景観が損なわれてしまい、また、たばこの吸い殻の投げ入れ等による火災も懸念されたため、ごみ箱を撤去いたしました。そのため、ごみは持ち帰り、ご自身で分別して出していただくようお願いしております。</p> <p>また、ごみ箱がなくても台東区がきれいな街であり続けられるよう、「東京都台東区ポイ捨て行為の防止に関する条例」により、ポイ捨てを禁止するとともに、マナー指導員による巡回・声掛けや、清掃ボランティアである大江戸清掃隊による活動などを行っております。</p> <p>今後も、様々な啓発活動を実施することでまちの美化に努めてまいります。</p>	<p>—</p>

◇観光客を取り戻すために

質問	回答	対応
<p>コロナウイルスにより、台東区、主に浅草への観光客が激減し、店舗の閉店も多く見受けられます。最近では、オンライン人力車というzoomでどこからでも人力車体験ができるサービスが取り上げられていましたが、区として観光客を取り戻すために何かされていることはありますか。また、このようなコロナ禍で、今後どのような街を目指していきたいと考えていますか。</p>	<p>感染者の少ない地域のお客様等は、感染状況の高止まりを警戒して、東京への来訪を控える方が多い状況にあると思われます。</p> <p>減少した観光客を再び増加させていくために、InstagramやTwitterを活用し、区内観光事業者のコロナへの取り組みや、安全をアピールしつつ、事業者のアカウントの存在を広く伝える目的で「#たいとう愛」を開始しました。さらに、新しい日常に取り組んでいることを掲示する「宣言書ステッカー」の配布や、感染予防の講習会等を通じて、区内施設・事業者の感染対策を後押しし、安全な観光ができる環境を整えると共に、観光客の来訪を促すため、民間事業者などと連携したプロモーションも実施しております。</p> <p>今後も選ばれる観光地であり続けるために、安全で安心して訪れることができる街を目指してまいります。</p>	○

◇子ども食堂について

質問	回答	対応
<p>子ども食堂や学習支援などの活動を、子どもに対しても、企業や飲食店に対しても、もっと広めるような活動をしたいと思っておりますが、台東区でそのような活動はございますか。</p>	<p>現在区内では、4団体により、子供食堂と学習支援を5か所開設しております。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部活動を中止しておりますが、感染症対策を施したうえで、活動を順次再開しております。</p> <p>活動の様子は、区公式ホームページに掲載し、広く周知をしており、条件を満たす団体には補助金の支出も行っております。</p> <p>また、学習支援にご協力いただけるボランティアの募集を区で行っております。ぜひボランティア活動にもご参加いただき、支援の輪を広めていただければと思います。詳細は、担当の子育て・若者支援課までお問い合わせいただきますようお願いいたします。</p>	○